

急性アルコール中毒



アルコールをまったく受けつけないか、少量飲めても悪酔いしやすい体质です。体质の違いを決めるのは、ALDH2という酵素の働き方です。酒類に含まれるエチルアルコールは、肝臓で分解されると毒性の強いアセトアルデヒドと言う物質になります。この物質は頭痛や吐き気、動悸などを引き起します。このアセトアルデヒドを分解して酢酸に変える酵素のうち、最も重要なものがALDH2です。ALDH2がうまく働かないと、アセトアルデヒドが体内にたまつて苦しむ思いをします。

一方、残りの6割はALDH2の働きでアセトアルデヒドがどんどん分解され、頭痛や吐き気などをあまり経験しません。そのかわり、アルコール依存症や内臓疾患にかかる可能性が高くなります。自分の体质を正しく理解し、また他人の体质を尊重して、飲み過ぎや無理強いはやめましょう。



悪酔いしないタイプ	飲んだら悪酔いするタイプ	まったく飲めないタイプ
日本人の約 6 割	日本人の約 3 割	日本人の約 1 割
<p>このタイプはアセトアルデヒドによる悪酔いをあまり経験せずにアルコールの酔いを楽しむことができるため、ついつい飲み過ぎてしまいますが、アルコール依存症者の9割以上がこのタイプの人です。肝臓障害のリスクも大きいので要注意。なお、体质に関わらず、すべての人が急性アルコール中毒におちいる可能性があります。</p>	<p>ALDH2がわずかに働くため、訓練すれば赤くなりながらも少量ならば飲めるようになります。この体质の人はアセトアルデヒドがたまりやすく、肝臓などの臟器に害が及びます。飲むための訓練は体のためになりません。</p>	<p>ALDH2が全く働かず、どんなに訓練しても飲めるようにはなりません。ビール1杯で動悸がし、失神することも。このタイプにお酒をすすめるのは拷問と同じです。</p>

急性アルコール中毒そのものよりも、アルコール以外の原因による意識障害です。飲酒後のふらつきやアルコールの麻酔作用によつて、患者さんはしばしば転倒します。アルコール中毒の患者さんは、それらを訴えないことが多い、頭部打撲や頭蓋内出血など、より重症な疾患が見逃されやすくなります。そのほか、脱水、血圧低下などによつて、脳梗塞が発症していたり、低血糖や、糖尿病による高血糖、さらには肝機能の悪化によって意識障害が生じていることもあります。単純にアルコールによる意識障害と決めつけずに、これらの疾患を医師が見極めることが重要となります。



**急性アルコール中毒は
気付いたら**

叱咤にはうきに応じるよ、されば、そのまま寝かせて様子をみます。体温が下がらないようふとんや毛布をかけ、部屋の温度に気をつけます。嘔吐による窒息にも注意します。

軽症の場合は、体温を保つように注意しながら観察することで自然に回復します。重症例で昏睡の場合には、空気の通り道である気管にチューブを挿入し、必要に応じて人工呼吸器を用いた治療を行います。急性アルコール中毒では脱水を伴っていることが多いため点滴によって血中アルコール濃度を下げると同時に水分補給を行います。

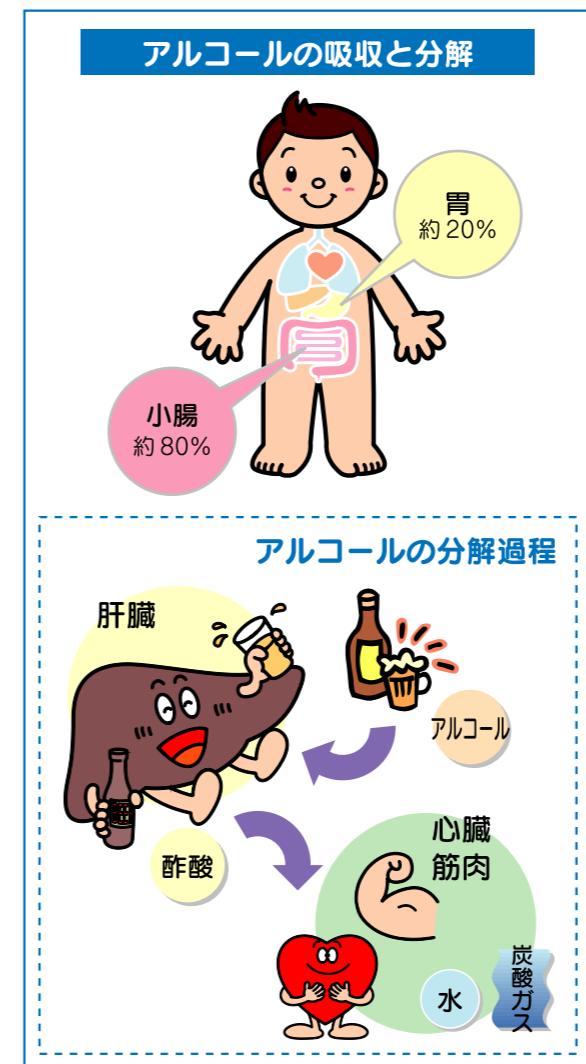
症状には、個人差があるものの主に血中アルコール濃度によります。血中アルコール濃度は、飲んだ量速さのほか、肝機能などの体の状態や、遺伝的性質などによつて決まります。

検査と診断

血中アルコール濃度の測定は、濃度と症状の関係を知るうえで有効な

症状の現れ方

症状には、個人
主に**血中アルコール濃度**
速さのほか、**肝機能**
や、**遺伝的性質**な
ます。



急性アルコール中毒とは、アルコール飲料としてエタノールを短時間に多量に摂取することで、歩行障害や意識障害、さらには昏睡（こんすい）、呼吸抑制、血圧低下といった状態が生じることです。重症の場合には死亡することもあります。決して軽視することはできません。

□から入ったエタノールは胃から約20%、残りは小腸から吸収されます。空腹時には小腸への移動が早くなるため酔っ払いやすくなります。何も食べずに日本酒で～8合(1260～1440ML)、ウイスキー1でボトルの1／2本(約375ML)以上を1時間以内に飲むというような短時間での多量摂取は、昏睡状態に陥り死亡する危険があります。

はじめに

原因は？

酔いのメカニズム4段階～「酔いつぶれ」とは脳がマヒする段階～

昏睡→死	泥酔	酩酊	ほろ酔い
何をしても起きない	酔いつぶれる	足元がふらつく	気持ちがぼぐれる

アルコールの作用で大脑辺縁系にマヒが及んで「酔つぱらい」状態になると同じ話を繰り返す、となりの人にからむ。ロレツが回らない、足元がふらつくなどになってしまった場合はストップ。

脳新皮質がマヒし理性の抑制がはされリラックスした状態。運転は絶対ダメ。

アルコールの作用で脳新皮質がマヒし理性の抑制がはされリラックスした状態。運転は絶対ダメ。

脳幹や脊髄にも及び始める。ついにマヒが脳幹・脊髄から呼吸中枢のある延髄に至る。ここがやられてしまうと、極めて危険な状態。窒息する危険がある。絶対一人にしない。誰かが付き添つて病院へ連れて行くこと。

「酔いつぶれた」状態。吐いたものを気管に詰まらせてしまう。ここがやられてしまうと、極めて危険な状態。窒息する危険がある。絶対一人にしない。誰かが付き添つて病院へ連れて行くこと。

泥酔と昏睡は紙一重！一番多いのは吐物による窒息死！

ここから急性アルコール中毒の段階！

薬を飲んでいる方	妊娠・授乳中の方	未成年者
少量のアルコールでも、おなかも赤ちゃんにとっては大きな刺激となります。発達が妨げられ、低体温や早産の危険もあります。だから、未成年者の飲酒は法律で禁止されているのです。	成長期の飲酒は、心の問題だけでなく、脳、肝臓、生殖器などにも大きなダメージを与えます。だから、未成年者の飲酒は法律で禁止されています。	風邪薬、精神安定剤、睡眠薬などとアルコールと一緒に摂取すると、胃が荒れる原因となったり、ひどい場合には昏睡に陥ることがあります。

左記の状況の方は、飲酒そのものを控えて下さい。

入浴前 運動する時 運転する時

自分では酔つていらないつもりでも視力や反射神経が鈍っています。「このくらいなら…」という甘い判断は死亡事故に繋がる場合もあります。飲酒後の水泳や、雪山でのスキーやスノーボードは危険違反します。もちろん、法律にもあります。

心臓への負担やバランス感覚の鈍化により、本人だけでなく、他人も危険にさらす場合があります。飲酒後の水泳や、雪山でのスキーやスノーボードは危険です。

おわりに

「酒は百薬の長」という諺がありま
す。少量のアルコール摂取は心筋梗塞や脳卒中のリスクを低下させるといわれています。さらにはストレスを解消し、コミュニケーションの空間を作る（いわゆるノミニコケーション）などのメリットがあります。飲酒を正当化する免罪符として使い続ければ、「酒は百薬の長」という条件を忘れてはいませんか？

でもちょっと待って！「少量の」飲酒を正當化する免罪符として使い続ければ、「酒は百薬の長」という条件を忘れてはいませんか？

繰り返しになりますよ。

チャンス4 刺激しても反応がなければ 救急車を

耳元で名前を呼んだり、つねり身体をゆすったりして反応がなかつたら、昏睡状態のところにいます。「事を大きくしたくない」などの体面を気にしている場合ではありません。寝かせる人は意外と多いのです。寝かせる時はあお向けてではなく、横向きで寝かせないためにも、じらふを見逃さないためにも、しっかりと抱き起こしてノドに詰まり、窒息する危险です。吐いたものが逆流します。その人は今「死」と紙一重のところにいます。

チャンス3 横向きで自然に吐かせる	チャンス2 酔いつぶれた人を 絶対に一人にしない	チャンス1 イッキはさせない

窒息、転落、水死、凍死、交通事故：泥酔した人を1人にしてとんでもあります。「息苦しくなるがかりません。」「息苦しすぎます。」「全身が冷たい」「大いに反応しない」などの危険信号を見逃さないためにも、じらふを見逃さないためにも、じらふを呼びましょう。

「つぶれ部屋」に放りこむなんでもあります。イッキ飲み、イッキ飲ませは、命にかかわります。はやすだけでも殺人行為になります。1人1人の飲むペースを尊重しましょう。

窒息、転落、水死、凍死、交通事故：泥酔した人を1人にしてとんでもあります。「息苦しくなるがかりません。」「息苦しすぎます。」「全身が冷たい」「大いに反応しない」などの危険信号を見逃さないためにも、じらふを見逃さないためにも、じらふを呼びましょう。

「つぶれ部屋」に放りこむなんでもあります。イッキ飲み、イッキ飲ませは、命にかかわります。はやすだけでも殺人行為になります。1人1人の飲むペースを尊重しましょう。



筆者紹介
診療部 救急診療科
富岡 秀人 医師